

十二月二十三日日曜日晴 午後、小山久二郎来る。三十万円貸せとのこと、こちらも借金だらけにて税滞納のことで断る。一万二万という金をかき集めて年を越すところなりと話す。……須田町にて夕食して、車で新宿、電車で中野に行き、九時から仙八にて飲み、十一時、近くのヤリ（キ？）トリキャバレという所へ行き、酔って十二時帰る。

（『伊藤整日記』より）



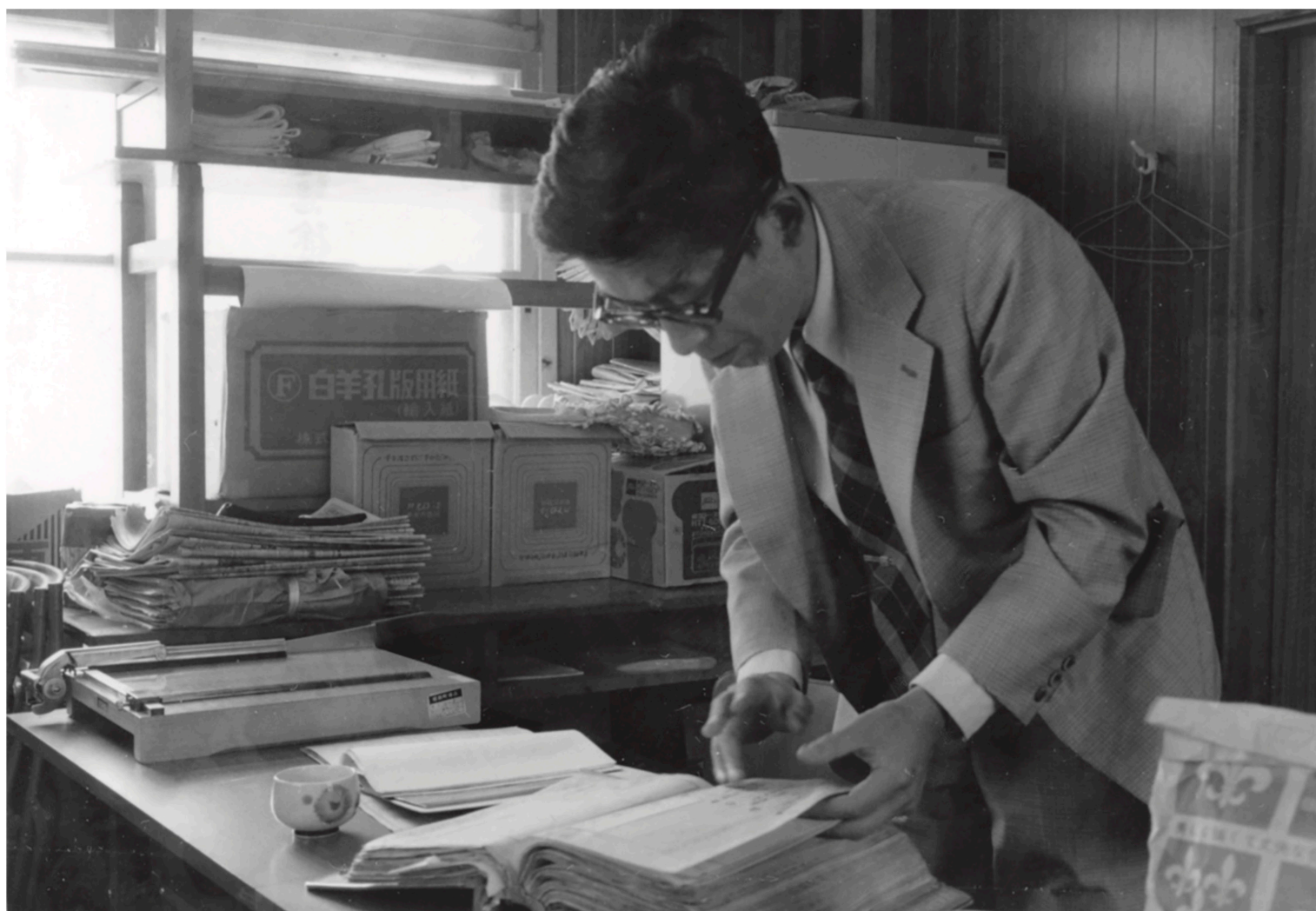
伊藤整 1956年12月23日中野「千八」にて（友人が伊藤整のカメラで撮影）

市立小樽文学館企画展

2023年2月4日（土）

～3月26日（日）

『伊藤整日記』 と



曾根博義 1974年『伝記伊藤整』執筆のための北海道取材旅行にて

近代文学研究者 曾根博義の仕事展

伊藤整が太平洋戦争中から亡くなる昭和44（1969）年11月まで、ほぼ欠かさず綴った日記が子息伊藤礼氏の手で全8冊の書籍として完結した。これは伊藤整個人にとどまらず戦後文学、社会史の最重要資料となるもので、その日記原本や関連資料等を展示する。また平成28（2016）年亡くなった元日本大学教授曾根博義は伊藤整を中心にした近代文学研究の第一人者だが、曾根が『伝記伊藤整』（1977年刊行）執筆のために伊藤整周辺の人々から小樽で聞き取り調査・記録した膨大なノート、録音テープ、写真などを合わせて展示する。

開館時間 9時30分～17時（最終入館16時30分） 休館日 毎週月曜日、2月14日（火）・24日（金）、3月22日（水）

入館料 一般300円 高校生・市内70歳以上150円 障がい者・中学生以下無料 主催・会場 市立小樽文学館 〒047-0031 小樽市色内1-9-5 tel.fax.0134-32-2388 後援 小樽文学舎